

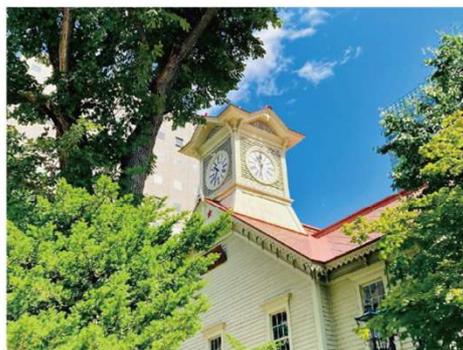


第2期

札幌市文化財保存活用 地域計画 【概要版】

さっぽろの歴史文化を
未来へつなげるために

令和7年（2025年）7月
札幌市



背景と目的

背景

- ・市内には文化財として指定・登録されているもの以外にも貴重な文化財が多く存在していますが、把握がなされないまま失われ、様々な分野で活用されていない状況が危惧されます。
- ・こうした背景を踏まえ、令和2年2月に「札幌市文化財保存活用地域計画」（以下「第1期計画」といいます。）を作成し、令和6年度（2024年度）末で、第1期計画が終了しました。
- ・第1期計画期間中の取組内容の評価検証を踏まえ、「第2期札幌市文化財保存活用地域計画」（以下「第2期計画」といいます。）を作成します。

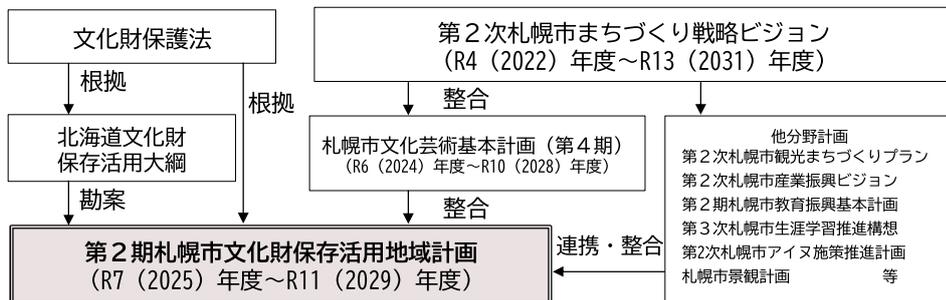
目的

文化財や歴史文化の価値と魅力を多くの市民が共有し、大切に使いながら将来に継承していくことで、市民にも来訪者にも魅力あるまちづくりを進めるための基本的な方針を示します。

位置づけ・計画期間

位置づけ

「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」、「札幌市文化芸術基本計画（第4期）」を踏まえた、文化財の保存・活用の基本計画として位置づけます。

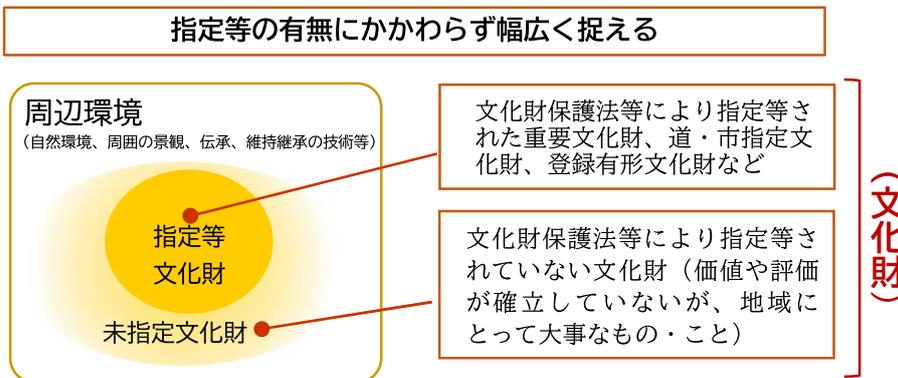


計画期間

令和7年度（2025年度）から令和11年度（2029年度）までの5年間

文化財の把握の方針

- ・文化財保護法等による指定等にかかわらず、地域の歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた資産を「文化財」として取り扱います。
- ・文化財保護法による分類が困難なものなども、周辺環境との結びつきにも着目して幅広く把握します。



札幌市の文化財の現状

指定等文化財は59件あります。

近代以降の建築物が多く、大半を札幌市、北海道、北海道大学が所有しています。

また、既往調査報告書、市民アンケート、第1期計画作成時のパブリックコメント等から未指定文化財を把握しました。

未指定文化財の中には、札幌市地域文化財認定制度、さっぽろ・ふるさと文化百選など、文化財保護法等以外の制度により認定等をされたものを含みます。



旧永山武四郎邸



丘珠獅子舞

文化財の指定・登録状況（R7.3月時点）

類型	国	道			市	計	国	登録	合計	
		指定等	指定	指定						
有形文化財	建造物	8	2	3	13	27			40	
	美術工芸品	絵画	0	0	0	0	0	0	0	0
		彫刻	0	0	1	1	0	1	0	1
		工芸品	2	0	0	2	0	2	0	2
		書跡・典籍	0	0	0	0	0	0	0	0
		古文書	0	0	0	0	0	0	0	0
		考古資料	0	1	1	2	0	2	0	2
歴史資料	1	1	3	5	0	5	0	5		
無形文化財		0	0	1	1	0	1	1	1	
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	0	0	1	0	1	0	1	
	無形の民俗文化財	1	0	0	1	0	1	0	1	
記念物	遺跡	2	0	2	4	0	4	0	4	
	名勝地	0	0	0	0	0	0	0	0	
	動物、植物、地質鉱物	2	0	0	2	0	2	0	2	
文化的景観		0	-	-	0	-	0	-	0	
伝統的建造物群		0	-	-	0	-	0	-	0	
合計		17	4	11	32	27			59	

札幌市の歴史文化の特性

歴史文化の整理の考え方

空間的観点（自然環境や地形など）・地域社会的観点（社会を大きく変えた出来事など）・歴史的観点（歴史文化の時代を超えた継承）から、6つの特性を整理しました。

①先史から育まれた人々の暮らし

札幌で最初に人類がその足跡を残したのは旧石器文化の人々でした。その後、縄文文化、続縄文文化、擦文文化と人々の活動の痕跡が見つかっています。



①N30遺跡出土土偶



②北海道庁旧本庁舎

②幕末に始まる諸村の開拓と開拓使による中心市街地の建設

幕末に行われた各地の農地等の開拓や、明治政府による開拓使設置に伴う本府の建設は、後の道都・札幌の基礎を形成しました。



③聖火台
(真駒内公園野外競技場)



④札幌まつり1960年（札幌市公文書館所蔵）

③オリンピックで変わった街の姿と市民の意識

昭和47年（1972年）の冬季オリンピック札幌大会は、街の姿が変わるきっかけとなり、市民の誇りやアイデンティティの形成に貢献しました。

④都心で楽しむ季節の催し・風物詩

四季がはっきりしていると言われる札幌には、市街地で楽しめる祭事やイベントが季節ごとに開催され、風物詩として親しまれています。



⑤三角屋根の家（札幌市公文書館所蔵）

⑤積雪寒冷地に成立した大都市

降雪量が年間5mにもなる積雪寒冷地である札幌には、雪や寒さの中で快適に暮らすため、創意工夫を重ねてきた技術や文化があります。

⑥継承されるアイヌ文化

先住民族であるアイヌ民族が生活していたところに、各地からの移民が移り住み、都市が形成された札幌は、今後も継承されるアイヌ文化の現在を感じられる場であるとともに、アイヌ語に由来する地名が多くあります。



⑥アイヌ文化交流センター

市民ワークショップ等で話し合われた歴史文化

第1期計画作成時の市民ワークショップなどで、上記の6つの特性とは異なる視点からも様々な意見が交わされました。これらの意見を踏まえて「市民ワークショップ等で話し合われた歴史文化」として整理しました。

- | | | |
|-------------------|-----------------|---------------------|
| ① 各地に設けられた屯田兵村 | ② 今も親しまれる地産建材 | ③ 「馬鉄」に始まった路面電車 |
| ④ ななめ通りから見る札幌村の歴史 | ⑤ 手稲山麓に残る鉾山村の記憶 | ⑥ 水の恵みに支えられた西区の稲作文化 |
| ⑦ 日本酪農の父が残した足跡 | ⑧ 歩兵第25連隊のまち月寒 | |

関連文化財群の考え方

・関連文化財群とは、文化財とその価値を形成する様々な要素（周辺環境）とを一体のものとして捉えたものです。

・令和5年度までに札幌市の歴史文化の特性、市民ワークショップ等で話し合われた歴史文化の特性を基にした切り口で、7つの「関連文化財群とストーリー」を設定しました。

・第2期計画期間においても同様に、「関連文化財群とストーリー」の設定を行います。

・設定した関連文化財群を基に、文化財等の情報発信やを行い、観光や地域づくりの資源としての活用を目指します。

■札幌市の関連文化財群を設定する際の要件

- ・札幌の歴史文化の特性をよく表す文化財群の一つのまとまりとして捉えることと、札幌の個性や魅力がより際立つようになるもの
- ・大人から子どもまでが楽しめるストーリーによって説明され、札幌の歴史文化についての魅力のPRや、理解の促進に貢献するもの
- ・市民が愛着や誇りを感じ、自ら守り伝えていきたいと感じ、その魅力を誰かに伝えたいと感じるもの

令和5年度までに設定した関連文化財群

設定年度	番号	関連文化財群	関連する特性
令和2年度	1	札幌の都市軸となった慶応2年のインフラ「大友堀」 －亀太郎の精神と「札幌黄」の隆盛	②、④
	2	浮かび上がる「開拓使」の遺産 －札幌のまちづくり・ものづくり	②
	3	札幌軟石4万年の旅 －地史を揺るがす大噴火から「カワイイ」まで	②、②
令和3年度	4	縄文と札幌 －ぎっぼろの縄文を追う	①
	5	「札幌オリンピック」の遺産が伝える近代都市への歩み －五輪によって新たにデザインされたまち・札幌	③
令和4年度	6	札幌の季節を満喫する －自然と人が織りなす豊かな四季	④
令和5年度	7	雪や氷と共にある暮らし －厳しい冬を克服し、利用し、楽しむ	⑤

関連文化財群

<p>関連文化財群1</p>	<p>札幌の都市軸となった慶応2年のインフラ「大友堀」 - 亀太郎の精神と「札幌黄」の隆盛</p>	 <p>創成川</p>
<p>概要</p>	<p>開拓判官島義勇が札幌の南北軸とした「大友堀」は、慶応2年（1866年）に、箱館奉行の直営農場のための用排水路として大友亀太郎によって開削されたもの。幕末のインフラは、後に札幌産タマネギ「札幌黄」の生産にもつながりました。</p>	 <p>旧札幌農学校演武場（時計台）</p>
<p>構成文化財</p>	<p>大友堀跡、創成川、札幌黄、丘珠獅子舞、札幌村・大友亀太郎関係歴史資料及び史跡 など</p>	
<p>関連文化財群2</p>	<p>浮かび上がる「開拓使」の遺産 - 札幌のまちづくり・ものづくり</p>	 <p>旧札幌農学校演武場（時計台）</p>
<p>概要</p>	<p>近代国家を目指す明治時代の日本にとって、北海道を開拓し、その資源で産業を興すことは極めて重要なことでした。そのための国の機関が「開拓使」です。札幌市街地を歩くと近代化の揺り籠ともいえる役割を果たした施設群に触れることができます。</p>	<p>北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）、北3条通、旧札幌農学校演武場（時計台）など</p>
<p>構成文化財</p>	<p>北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）、北3条通、旧札幌農学校演武場（時計台）など</p>	
<p>関連文化財群3</p>	<p>札幌軟石4万年の旅 - 地史を揺るがす大噴火から“カワイイ”まで</p>	 <p>旧札幌控訴院庁舎</p>
<p>概要</p>	<p>札幌軟石は、約4万年前に起きた支笏火山の大噴火による火砕流が冷え固まったものです。明治時代以来、建築材料として使われたのはもちろん、採掘や運搬の歴史においても大きな軌跡を残したほか、“カワイイ”雑貨やインテリアにも使用される地産地消の資源です。</p>	<p>旧石山郵便局（現・ぼすとかん）、旧札幌控訴院庁舎（札幌市資料館）、石山緑地 など</p>
<p>構成文化財</p>	<p>旧石山郵便局（現・ぼすとかん）、旧札幌控訴院庁舎（札幌市資料館）、石山緑地 など</p>	
<p>関連文化財群4</p>	<p>縄文と札幌 - さっぽろの縄文を追う</p>	 <p>N30遺跡出土品</p>
<p>概要</p>	<p>私たちが暮らす北の大都市「札幌」のまちなかにも、その足元には、たくさんの縄文遺跡が埋もれていて、今の私たちの暮らしは、まさにその上に築かれています。</p>	<p>N30遺跡出土品</p>
<p>構成文化財</p>	<p>N30遺跡、札幌市N30遺跡出土品、丘珠縄文遺跡（H508遺跡）、丘珠縄文遺跡（H508遺跡）出土品など</p>	
<p>関連文化財群5</p>	<p>「札幌オリンピック」の遺産が伝える近代都市への歩み - 五輪によって新たにデザインされた街・札幌</p>	 <p>旧大倉シャンツェ</p>
<p>概要</p>	<p>札幌市がアジア初のオリンピック冬季競技大会を開催した背景には、明治から昭和にかけて、スキーやスケートがウインタースポーツとして市民に定着していった歴史があります。オリンピックの開催は、札幌の街が変わるきっかけとなりました。</p>	<p>旧大倉シャンツェ</p>
<p>構成文化財</p>	<p>旧大倉シャンツェ、パラダイス・ヒュッテ、空沼小屋、聖火台、五輪大橋、さっぽろ地下街 など</p>	
<p>関連文化財群6</p>	<p>札幌の季節を満喫する - 自然と人が織りなす豊穡な四季</p>	 <p>大通公園に咲くライラック</p>
<p>概要</p>	<p>冬は氷点下の気温が続き、夏は30度を超える日も珍しくない札幌は、四季がはっきりしているといわれます。その楽しみをさらに深め盛り上げるのが、人の営みと、いつもどこかで催される多彩な祭りや行事です。</p>	<p>大通公園に咲くライラック</p>
<p>構成文化財</p>	<p>円山原始林、ライラックまつり、札幌まつり（北海道神宮例祭）、中島公園、さっぽろ雪まつり など</p>	
<p>関連文化財群7</p>	<p>雪や氷と共にある暮らし - 厳しい冬を克服し、利用し、楽しむ</p>	 <p>ササラ電車</p>
<p>概要</p>	<p>札幌は1年の3分の1が冬日（最低気温が氷点下）で、ひと冬の降雪量は5m。これほど多くの雪が降る大都市は、世界でも珍しいといわれています。この厳しい寒さと雪を、先人たちはさまざまな知恵で克服し、利用し、楽しんできました。</p>	<p>ササラ電車</p>
<p>構成文化財</p>	<p>開拓小屋、三角屋根コンクリートブロック造住宅、ササラ電車、札幌大球、さっぽろ雪まつり など</p>	

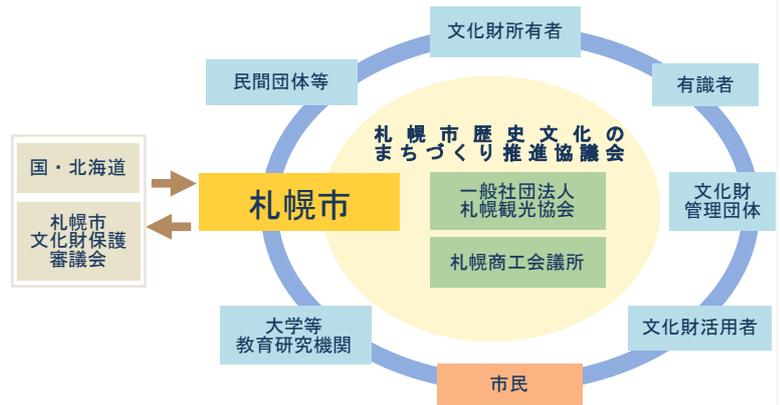
文化財の保存・活用の推進体制

行政・行政以外の体制と役割

行政	有識者	文化財所有者	民間	市民	協議会
文化財の保存・活用の方針を示すなど	専門知識から修理方法や活用の際の助言や指導など	所有する文化財を適切に次世代へ継承するなど	文化財を活用した事業の展開など	身近な文化財に関心を持ち交流の輪を広げるなど	計画推進のための取組を実施など

連携・協働を促す体制づくり・札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会による取組

- ・計画の目指す姿の形成に寄与することを目的として、札幌市、一般社団法人札幌観光協会、札幌商工会議所を構成団体として令和2年3月に「札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会」を設立しました。
- ・第1期計画期間中、協議会にて、様々な取組（「さっぽろれきぶんフェス」の開催やパンフレット「さっぽろ文化財散歩」の作成など）を実施しました。



防災・災害時に関する体制

- ・市有文化財について、警備の実施・文化財防火デーに合わせて消防訓練の実施します。
- ・被災時は北海道への被害状況の報告し、指導、助言を受けながら、国立文化財機構文化財防災センターへの救援依頼など、救援・復旧体制の構築を行います。

第1期計画取組の評価検証

文化財関連施設利用者数

- ・主な文化財関連施設の利用者（観覧者）数は、第1期計画作成前（令和元年度）の528,834人から、令和5年度は570,751人に増加しています。
- ・時計台、豊平館等の増により、利用者数全体数は、第1期計画作成前よりも増加したものの、利用者数が減少した施設もありました。

■文化財関連施設利用者（観覧者）数（R1-R5）（人、％）

関連施設	年度	R元※1 (2019)	R2 ※2 (2020)	R3※3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R5-R1 増減	対R元比
時計台		244,752	82,017	89,648	239,530	290,225	45,473	18.6
豊平館		21,062	19,548	15,070	28,081	36,743	15,681	74.5
八窓庵		7,526	4,799	1,946	5,934	7,215	▲ 311	▲ 4.1
旧永山武四郎邸		43,185	28,325	19,277	46,156	47,551	4,366	10.1
清華亭		7,786	2,804	1,953	5,616	(※4)535	▲ 7,251	▲ 93.1
琴似屯田兵村 兵屋跡		5,626	4,091	2,540	5,071	5,523	▲ 103	▲ 1.8
新琴似屯田兵 中隊本部		2,598	1,416	731	2,810	2,891	293	11.3
札幌村・大友亀太郎 関係資料及び史跡		4,074	1,358	846	1,952	1,956	▲ 2,118	▲ 52.0
旧黒岩家住宅		2,802	1,572	509	1,001	1,120	▲ 1,682	▲ 60.0
丘珠縄文遺跡		60,253	25,060	9,881	42,372	50,776	▲ 9,477	▲ 15.7
旧札幌控訴院庁舎		129,170	58,423	61,632	108,327	126,216	▲ 2,954	▲ 2.3
合計		528,834	229,413	204,033	486,850	570,751	41,917	7.9

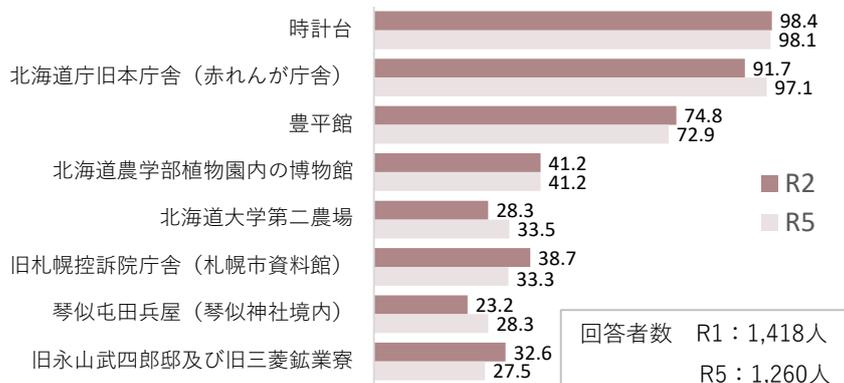
※1 R2.3.1～3.31まで新型コロナウイルス感染症の影響のため休館
 ※2 R2.4.14～5.31まで新型コロナウイルス感染症の影響のため休館
 ※3 R3.5.4～7.11、7.23～9.30まで新型コロナウイルス感染症の影響のため休館
 ※4 R5.5.1～R6.4.21まで、耐震保全改修工事のため休館

文化意識調査の結果

①札幌市内文化財認知度

- 令和5年度調査では、「時計台」(98.1%)、「北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)」(97.1%)が非常に高く、次いで「豊平館」(72.9%)の順に認知度が高い結果でした。
- 令和元年度と令和5年度で比較しても大きな差はなく、上位三つの文化財以外では、認知度が5割に満たない状態でした。

■札幌市内の文化財の認知度 (R1-R5) (%)



②文化財等の継承等の取組・参加したいイベント

- 「文化財や歴史的に価値のある資産を活用しながら次の世代につないでいくために必要だと思うこと」について、最も回答が多かったのは、「文化財等の価値や魅力を多くの人に知ってもらうという」という情報発信の取組でした。

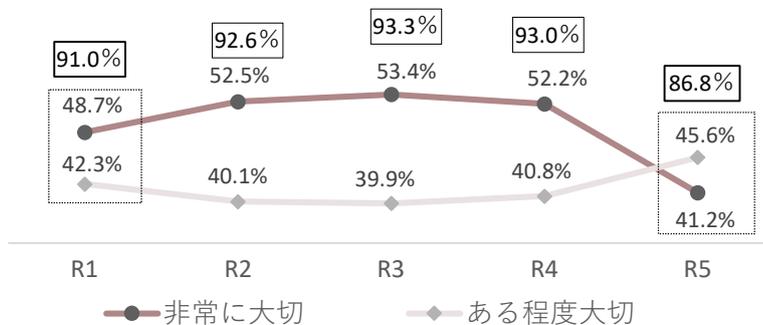
■文化財等の継承・活用のために必要な取組 (R5上位5項目) (%) (3つまで回答)



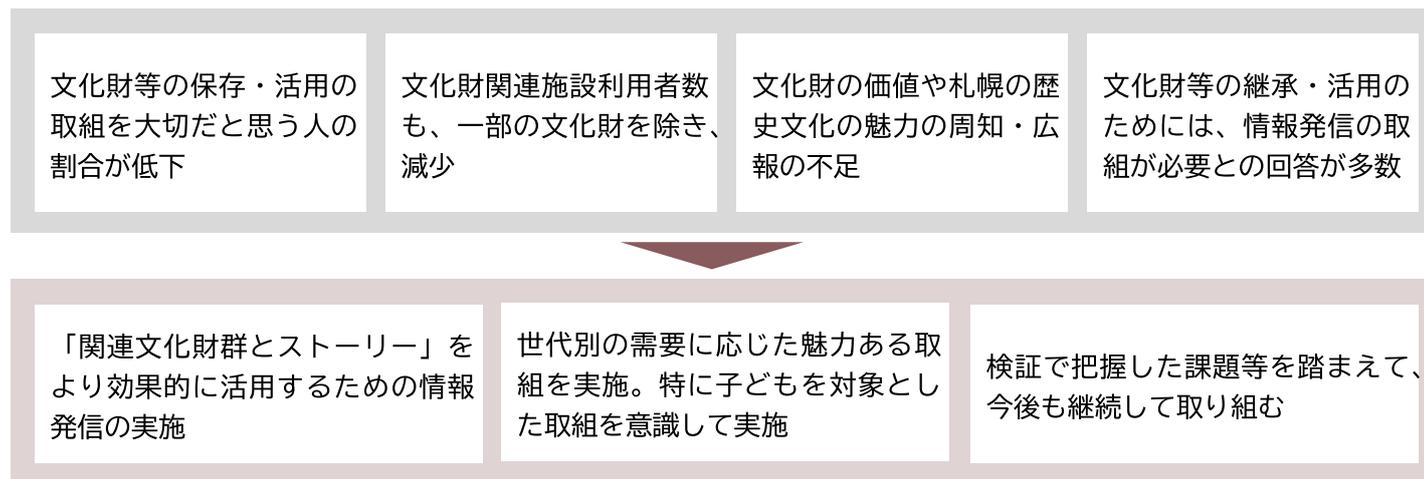
③文化財等を保存・活用する取組の重要度

- 文化財や歴史的に価値のある資産を保存・活用する取組を大切だと思う人(「非常に大切」・「ある程度大切」)の割合は、令和5年度で86.8%でした。
- 令和4年度と比較して、約6.2ポイント減、第1期計画作成前(令和元年度)の91.0%と比較すると、約4.2ポイント減少しています。

■文化財等の保存・活用する取組を大切だと思う人の割合



総括



目指す姿と基本方針

【目指す姿】

文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

(目指す姿の具体的なイメージ)

多くの市民が、文化財を通して札幌市の特性や自分たちが住む地域の魅力を理解し、それを誇りとして、次の世代に伝え、札幌市を訪れた人に語れるようになっていきます。

保存・活用の課題

文化財の保存活用の現状、第1期計画の取組の評価検証により整理した札幌市の文化財の保存・活用の課題、目指す姿に向けた方針と取組の体系は次のとおりです。

課題

調査・把握	・文化財に関する継続的な把握調査と詳細調査・現況調査が必要
共有・発信	・文化財や歴史文化に関する情報発信の充実が必要
保存・伝承	・文化財の適切な維持・保全や防災対策が必要 ・文化財の保存・伝承を行う担い手支援が必要
活用	・文化財を活用した様々な取組が必要
連携・協働	・文化財の保存・活用に関する連携・協働体制の整備が必要

基本方針 1

文化財の価値や魅力を掘り起こし、広める市民が大切に守り伝えてきた札幌の歴史文化を映す様々な文化財の価値を知り、魅力を広め、まちづくりの貴重な資源として見い出します。

基本方針 2

社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える

文化財を中心に多様な関係者がつながり、新たな手法やアイデアを取り入れながら、社会全体で文化財を生かし、その価値を保ち、未来へ残します。

Action1 見つける

調査・把握の課題に対する取組

(方針) 把握調査の継続と詳細調査・現況調査を実施する

Action2 共有する

共有・発信の課題に対する取組

(方針) 文化財の価値や歴史文化の魅力を、社会全体で共有する

Action3 伝える

保存・伝承の課題に対する取組

(方針) 文化財の価値を保ち、歴史文化の魅力を、次の世代へ引き継ぐ
(方針) 文化財の保存・伝承を行う担い手支援の検討・実施

Action4 生かす

活用の課題に対する取組

(方針) 文化財を観光や地域振興、教育など、まちづくりの魅力資源として使い、生かす

Action5 つながる

連携・協働の課題に対する取組

(方針) 行政、市民、企業等の事業者、研究者や専門家が連携・協働する体制を作る

保存・活用に関する取組

取組についての考え方

今後、様々な分野で文化財を活用しながらその適切な保存を図るために、文化財の価値や魅力に関する市民理解を前提とつつ、文化財の特性に応じた次の二つの考え方を踏まえ、取組の検討を行います。

- ア 札幌の歴史を伝え、来訪者を魅了する都心エリアの文化財
- イ 市民のふるさと意識を育む各地域の文化財

取組の概要

主な取組

<p>Action1 見つける 「調査・把握」の課題に対する取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ワークショップによる文化財の把握調査 ・文化財の詳細調査・現況調査 ・文化財保護指導員等による現地調査 ・札幌市地域文化財認定制度の継続 	 <p>れきぶんワークショップの開催</p>
<p>Action2 共有する 「共有・発信」の課題に対する取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市文化財データベースの公開と維持・管理 ・シンポジウム「さっぽろれきぶんフェス」の開催 ・札幌市埋蔵文化財センターの管理・運営 ・アイヌ文化交流センター・アイヌ文化を発信する空間の管理運営 ・学校教育における文化財や歴史文化の学習 	 <p>さっぽろれきぶんフェスの開催</p>
<p>Action3 伝える 「保存・伝承」の課題に対する取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財等施設の効率的な維持・保全 ・旧札幌控訴院庁舎保存修理事業 ・時計台保存修理事業 ・文化財の防災・防犯対策 ・無形文化財の保存・伝承支援 	 <p>文化財等施設の維持・保全</p>
<p>Action4 生かす 「活用」の課題に対する取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「関連文化財群とストーリー」のPRと活用 ・ボランティアガイド育成支援 ・付加価値の高い観光コンテンツ創出事業 ・郷土資料館支援の手法検討・実施 ・体験学習施設「丘珠縄文遺跡」の管理・運営 	 <p>ボランティアガイド育成支援</p>
<p>Action5 つながる 「連携・協働」の課題に対する取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会の運営 ・保存・活用に関する課題解決支援 ・関係者と経済観光団体等の交流機会創出 ・重要文化財 北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）保存活用計画との連携 ・北海道大学キャンパスマスタープランとの連携 	 <p>市内歴史文化の関連団体との連携強化</p>

計画推進の指標

計画推進に当たっての指標を次のとおり設定します。

指標	令和5年度 (2023年度)	令和11年度 (2029年度)
文化財等の保存・活用の取組が大切だと思う人の割合	86.80%	90%以上
文化財等関連施設(※)利用者（観覧者）数	570,751人	580,000人

※ 時計台、豊平館、旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮、八窓庵、琴似屯田兵村兵屋跡、清華亭、旧黒岩家住宅、新琴似屯田兵中隊本部、札幌村郷土記念館、丘珠縄文遺跡、旧札幌控訴院庁舎（札幌市資料館）

第2期 札幌市文化財保存活用地域計画 【概要版】

発行：令和7年（2025年）7月

企画・編集：札幌市市民文化局文化部文化財課

住所：札幌市中央区北1条西2丁目時計台ビル10階

URL：<http://www.city.sapporo.jp/shimin/bunkazai/index.html>

